子どものネットトラブル どう防ぐ？ ⑧

相手意識の欠如

「思い悩み解決」経験が大切

心配される子どもたちのネットトラブルに「相手を強く攻撃する」「個人情報をばらしたり噂（うわさ）話を広げたりなど、無責任な発言をする」などの行為がある。自分勝手なこれらの行為からは、相手を尊重し、その立場に立って考える相手意識が全く感じられない。現代社会全体の課題なのかもしれないが、ネット上では極端にその傾向が強い。

ネットは一見、匿名の世界に見えるため、一部の子は「好き放題にしていい空間」と勘違いしてしまう。「これを読んだらどう思う？」「誰が見る？」「どんな家族がいる？」「どんな家族がいる？」など、少しでも相手を慮（おもんばか）れば悪質な表現は無くなるはずだが、勘違いしてしまった子にはそれができない。

ネットは現実社会以上に〝悪を許さない〟世界。負の行為は必ず誰かに発見され、拡散し、書き込み主への攻撃が始まる。個人情報が暴露され、社会的に抹殺されてしまう例も少なくない。

では、こうした悲劇を防ぐために何が必要なのか…。私は「現実の人間関係のトラブルとその処理をきちんと経験していく」ことしかないと思う。

精神的に人人と子どもが同居している十代は、人間関係の難しさに直面する時期でもある。子どもたちは学級、部活、地域といった集団や、家族、先輩・後輩、親友、恋人など、人間関係の複雑な上下感や水平感、心理的距離感を、傷つけたり傷つけられたり、失敗したり褒められたりしながら体得していく。価値観の違いという心理的な衝突から、自分を理解し、他人と付きあう方法を学んでいくのだ。

しかし、ネットが介在してしまうと、そういったドロドロしたものを一気に飛ばして、「友人ができたような気になってしまう」ことが多い。

LINEやフェイスブックなどのSNS（通信アプリ）では〝友だち検索〟がフル活用されている。とても簡単に〝友だちに追加〟もできる。また〝友だち作り〟〝今遊べる人募集〟〝恋人募集〟の機能も多彩で、子どもを含めた多くの人が毎日普通に利用している。

もちろん、それを否定する気は全くない。

ただし、「ネット上だけの希薄な繋（つな）がりを〝友だち〟と勘違いしてしまう環境」が今の子どもたちのすぐ近くにある、という現実だけは、大人は理解する必要がある。

目の前の友だちや先輩・後輩とうまくいかず、思い悩みながら解決していくという経験が、実は、人として生きていく上で非常に大切な学習であり、そこにネットは介在しないほうがいいと思うのは自分だけだろうか。

〈匿名に見えるネット空間での悲劇〉